

# 新潟駐車協会創立50周年記念式典講演会レポート

新潟駐車協会

**演 題：古町商店街と提携駐車場の歴史**

**講 師：新潟駐車協会副会長 大塚 善紀様**

前239号で掲載しました新潟駐車協会創立50周年記念式典において、同協会副会長であり古町7番町商店街振興組合理事長である大塚善紀様より、「古町商店街と提携駐車場の歴史」と題してご講演を頂きましたので、その内容を掲載いたします。

## <講師紹介>

大塚善紀様は大市繊維品株式会社の代表取締役社長で、新潟駐車協会の副会長(前会長)及び古町7番町商店街振興組合理事長を兼職。また、古町通7番町地区市街地再開発組合の理事長として推進した古町ルフルは、令和2年に開業し、本年3月25日にはグランドオープンのセレモニーが開かれた。

## <講演内容>

### ○新潟の成り立ち

- ・信濃川と阿賀野川が並流する河口は大きな入り江で港の要件があり戦国時代から重要な地。長岡藩主堀直寄がみなとまちとして発展させるため都市計画「元和の町建て」(1617年)で集団移転をさせ港町の基礎を築いた。
- ・長岡藩主牧野忠成が第2次都市改造「明和の町割り」(1655年)で堀を縦横に掘り込み、信濃川の水を引き、八千八川とうたわれる情緒豊かな町ができあがった。
- ・新潟は物流の拠点となり、北前船航路の寄港地として栄え幕末の開港五港に選ばれ、運上所(税関)、英国、ドイツなどの領事館が置かれた。



### ○古町の繁栄

- ・信濃川左岸(西側)に古町地区があり、新潟島ともいう。歴史的に奉行所、県庁、市役所、裁判所、税務署、北陸地方建設局、第一港湾建設局、警察署、消防署、旧制高校、旧制医科大、病院、第四国立銀行、全国十番目の日本銀行新潟支店、金融街、証券取引所、商工会議所、新聞社、放送局など多くの機関が集積し、また商店街、百貨店、問屋街、造船所、まち工場などもあり、就労人口も居住人口も多かった。
- ・また、おもてなしの心の花街。料亭、割烹、食堂、飲食店、映画館、歓楽街など、なんでも

ある繁華街で、2-30年前位までは古町は本当ににぎやかだった。

- ・新潟駅から万代橋を通過して古町までは約2km。新潟市の中心部には古町地区と万代地区2つの大きな核がある。信濃川に架かる初代の萬代橋は1886年に完成し、長さは782mであった。1922年(大正11年)、約50km上流に大河津分水が通水して信濃川の流量を減らし、信濃川の一部を埋め立てて出来たのが万代地区であり、3代目の現在の萬代橋は307m。六連のアーチが美しい石張りのコンクリート橋で重要文化財に指定されている。

### ○古町の時代から万代地区の開発

- ・かつての新潟は古町地区とその周辺にほぼ全ての機能が集中しており、「新潟へ行く = 古町へ行く」であった。戦時中も大きな被害を受けず、何度かあった大火でも一部の消失で済んだことで、花街や豪商の館、旧税関など、貴重な財産が残されたと考えている。

永らく古町が新潟市の中心であり、昭和12年に万代百貨店(後の大和)、小林百貨店(後の新潟三越)が開業し、昭和35年には丸大新潟(後のイトーヨーカドー)が開店した。

- ・昭和45年は人口の中心は古町地区であったが、次第に周辺部に移動し、平成12年では広いエリアに平準化するようになっている。

- ・信濃川の右岸を埋め立てて出来た万代地区では、昭和39年の新潟地震の後、新潟交通が開発に乗り出し、昭和40年代半ばに万代シティが誕生する。昭和48年にはバスセンタービル、万代シティビルがオープンし、後者の核テナントとしてダイエー新潟店が出店する。当時、周辺には空き地が多かったこと



から、平面駐車場や駐車場ビルが設けられた。昭和59年には新潟伊勢丹、万代シティ第2駐車場ビル(1000台)が開業した。

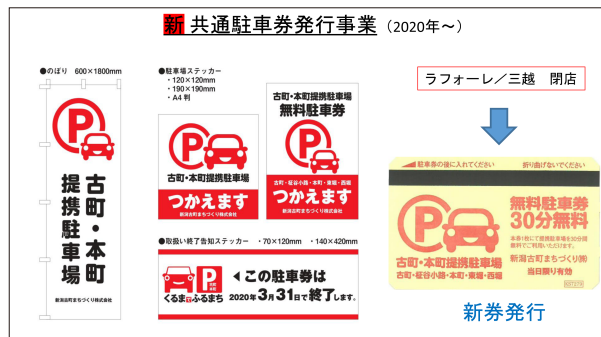
- ・一方、古町地区では、駐車場の必要性は認識されていたものの、空いた土地がなかったため、昭和45年に最初のタワーパーキングが作られた(昭和60年に建替え、現在はコインパーキング)ほか、昭和47年には西堀通に最初の自走式駐車場(約300台)が作られた。
- ・古町地区は、お客様から車を停めるところがないというイメージを持たれてしまったことから、昭和51年に西堀通の地下を掘って地下2階に駐車場(約300台、1階は約400mの地下街:西堀ローサ)を作ったが、それ以外には民間駐車場の開業を待つしかなく、万代地区との厳しい競争が続く。のちには郊外に駐車場を備えた大規模商業施設がつぎつぎに開業するようになり、更にはたいへんな時期を迎えることになる。

### ○新潟駐車協会の取り組み

- ・新潟駐車協会の初代会長である滝沢正元氏が、平成4年に自走式駐車場(約450台)を作った当

時、古町地区では駐車場の台数が非常に不足しており、有人駐車場ではクルマを詰めて停め、奥の車が出場するときには手前の車を動かしてから出し、また詰めて停めるといった運用を行うところもあった。また、平成7年には自走式駐車場パーク600(約470台)が開業した。

- ・ 駐車協会としては、①交通規制の緩和(路上パーキングの廃止、右折禁止の解除、一方通行の解除)、②駐車誘導システム、③新潟パークアイシステム、④商店街との連携、に取り組んだ。
- ・ ①交通規制の緩和については、現在では、中心部では路上パーキングはほぼなくなり、右折禁止(新潟駅から古町地区に向かう場合に右折が出来なかった)については萬代橋のたもと(万代側、古町側の2ヶ所)で右折が可能となった。また、数年前、主要道路である東堀通と西堀通(いずれも堀を埋めて作られた4車線道路)において一方通行が解除された。
- ・ ②駐車誘導システムは、目的地から離れているときはエリアごとの混雑状況が表示され、エリア内に入ると通りごとの個別駐車場の満空状況が分かるシステムである。他地域では建設省(当時)が主導した情報通信に電話回線を使用するシステムを導入していたが、新潟市では県警が主導した電波を使用したシステムだったため、通話料が掛からないというメリットがあった。
- ・ ③新潟パークアイシステムは、②に続いて導入されたネットに表示されるシステムであったが、時期尚早な感があった。
- ・ ④商店街との連携であるが、当初は商店街と個々の駐車場の個別の契約で、駐車場が店舗ごとにまとめた駐車券を商店街に提出すると精算される仕組みだったため、駐車協会は商店街と連携して古町地区提携駐車場組合を設立し、平成22年から駐車場組合と商店街組合との契約としてスタートした。そ



して、平成24年には駐車場側の意向を汲み、磁気式30分無料駐車券(全日駐規格・汎用共通サービス券)が導入された。「くるまで古町」と名付けられたこのサービスは、商店街、大型店、ファッションビル、銀行、クリニックなどで利用され、この時点で約5,000台の規模であった。

- ・ なお、当時、大型店は後払いで駐車券を購入していたが、大型店の撤退後の料金回収で揉めることとなり、これをきっかけに新しい駐車券に切り替えて今に至っている。

### ○古町ルフルグランドオープン

- ・ 平成22年の大和新潟店の閉店、平成28年のラフォーレ原宿・新潟の閉店、令和2年の新潟三越の閉店など厳しい状況が続く一方、新潟駅のリニューアルを起爆剤に古町中心地の再開発がスタートし、令和2年には大和新潟店跡地に古町ルフル(33,000㎡)が誕生した。令和4年3

月には地下で西堀ローサとも接続し、古町通、榎谷小路、西堀通の三方向に開けたルフル広場(900㎡、屋根付き)がグランドオープンを迎え、多様なイベントと市民の憩いの広場として賑わっている。

- ・また、はず向かいの新潟三越の跡地では東京建物などが再開発をすべく土地を取得しており、着工が待たれる。



以上